



THE ROTARY CLUB OF NAGOYA OSU

WEEKLY REPORT No. 1087

名古屋大須ロータリークラブ



<本年度会長方針> 夢や希望を語り合おう

地域を育み、大陸をつなぐ

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 岩崎 征一 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 松本 哲朗 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

<2010-2011年度 R.I.テーマ>

R.I. 会長 レイ・クリンギンスミス
Ray Klingensmith

第1283回例会

新世代のための月間

平成22年9月16日(木)

友達を呼ぼう例会

於 名古屋東急ホテル

会員61名

出席計算数

53名中41名出席

出席率77・36%

前及前回出席率88・68%

ロータリーリンク

「ROTTARY」

指揮者 伊藤 与則
ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

社会福祉法人日本介助犬協会
常任理事 事務局長
医学博士 高柳 友子さん
社会福祉法人日本介助犬協会
総務部広報渉外担当
古屋 道子さん

(訓練犬 グレース)

共和事業協同組合
代表理事 岡本 直幸さん

株式会社鈴商
代表取締役 鈴木 敏夫さん

久野接骨院
院長 久野 信彦さん

平和機械株式会社
元取締役会長 小野 定男さん

株式会社パイオニアテック
代表取締役 川末 繁樹さん

「ニコボックス」

「友達を呼ぼう」例会にご出席ありがとうございます。
「ニコボックス」です。 岩崎 征一

介助犬協会高柳事務局長と介助犬
グレース号をお迎えして。

鈴木さんをお迎えして。
尾上 昇

久野信彦さんよろしくお願いしま
す。
横井 衛
丹下 富博

少し涼しくなりました。
小笠原和俊

先日はお話を聞いていただきあり
がございました。 宇野 史仁

吉田 憲一さん、信州ではしっか
りいじめていただきありがとうございました。
田崎 雅三
誕生月です。 草野 勝彦

もつすぐ結婚記念日です。
近藤宏一郎

会長挨拶

岩崎 征一

JRセントラルタワーズ

JRセントラルタワーズは、旧
名古屋駅ビルの老朽化に伴い、2
000年に建設された、百貨店
オフィス、ホテルを併設した高さ
245mを誇る駅ビルです。

地上53階と51階のツインタワ
ーと安定感のある低層階で構成さ
れた端で洗練された外観は、名
古屋市中心部のランドマークとし

て機能しています。
デザイン・コンサ
ルトを担った
「KPF」は、コ



ーン、パターセン、フォクスによ
つて1976年に設立された超高
層建築を得意とする、アメリカを
代表する設計事務所です。そして
設計、デザインを監修した坂田誠
造氏は、近鉄パッセを設計した坂
倉順三氏の師事を受け、坂倉建築
事務所の東京事務所長として、長
く務め「デザイン力に優れた組織
事務所」との評価を定着させた人
物です。

卓話

「障害者の自立を支える介助犬」

社会福祉法人日本介助犬協会

常任理事 事務局長

医学博士 高柳 友子さん



介助犬とは、
手や足に障害
のある方々の
日常生活動作
を助けるため
に、落としたものを拾って渡す、
手が届かないものを持ってくる、
引き出しや冷蔵庫を開けて中から
ものを持ってくる、緊急時の連絡
手段として携帯電話などを手元
に運ぶといった動作を行うよう訓練
された犬のことをいいます。介助
犬は、2002年に制定された身
体障害者補助犬法(補助犬法)で
法的な位置づけが明確になり、補助
犬法では、同法により認定された
介助犬使用者である障害者が同
伴することを拒んではならないと

定められました。未だこの法律の
認知度が低いため、介助犬使用者
が飲食店や店舗、医療機関等で「犬
は置いて来て」と店舗の利用を断
られてしまうことが多々あるのが
実情です。補助犬法では、介助犬
より40年歴史の古い盲導犬、そし
て介助犬よりさらに少ない聴導犬
の3種の犬を総称して身体障害者
補助犬、略して補助犬としており、
これら補助犬が認定を受けると、
使用者は補助犬法に則り、「盲導
犬」「介助犬」「聴導犬」の別が書
かれた表示をつけ、また認定証と
健康管理手帳を携帯することが義
務付けられます。認知度の高い盲
導犬ですら同伴拒否に遭うことが
ありますが、補助犬を断ることは
使用者自身を断ることと同じだ
ということをご理解頂きたいと思
います。





わせてリハビリテーションの一環として介助内容が決められます。

身体障害の背景として進行性の疾患や重度な合併症、体調の変動が大きいなど多彩な医療的配慮が必要な介助犬訓練の大きな特徴で、介助犬トレーナーはリハビリ医療関係者との密接な連携が必要です。自立のためには様々な手段がありますが、介助犬は機能的介助に留まらず、障害者の生きがいとなり様々なチャレンジへの動機付けとなり、また周囲の人々と天を介した会話が広がるのが大きなリハビリ効果を発揮し、元氣と勇気を与えられます。

現在介助犬は全国に53頭対象となる障害者は175万人、中でも1万人以上の潜在需要者がいるといわれています。普及への課題は、認知度が低いこと、また財源が寄付に頼られていることが主ですが、そのために訓練士の資格制度がなく、また遺伝性疾患のない候補犬の確保が難しいなどの課題もあります。

これまで10年間、最も長く、零

細ながらも最多の実績を残してきた当会は、今年新たなる介助犬普及への挑戦として、全国では初めてとなる介助犬専門施設「介助犬総合訓練センター」を愛知県長久手町に建設します。訓練センターは、補助犬法制定のきっかけとなった故介助犬シンシアにちなんで「シンシアの丘」と名づけられました。

介助犬の普及を支えてくださる企業や個人のみならず、会員として、または施設へのご協力を頂くお願いをしております。一人でも多くの方々に介助犬の存在を知って頂き、また一人でも多くの障害者が介助犬によって自立し、楽しく社会参加が出来るようにご支援を頂ければと願っています。

友達を呼ぼう例会

ロータリー活動と例会内容を理解して頂くことを目的に、5名の方々にご参加いただきました。

写真左上から
久野 信彦さん



川末 繁樹さん、小野 定男さん
鈴木 敏夫さん、岡本 直幸さん

敬老のお祝い

横内 恭・浅野 彰
新沼 操



70歳を越える会員の方たちへ、クラブよりお祝いの品(松茸)が贈られました。当日欠席された方へは会長がお届けにありました。

元R財団奨学生への寄付

2週に分けて集められました寄付は、合計で7万5千円となりました。

「ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。」



10月7日(木)例会の案内

SPEAK OUT DAY

広報委員会

近藤 明美・前田 隆久
近藤宏一郎・杉浦 令淑

*本文は、原則 頂いた原稿を転載しています。



Letter from

AUSTRALIA

(前回の続き)

この間の理科の授業で、先生が「みんな外に出て」とおっしゃったのでみんな外に出ました。先生がセーターを着ている子と着ていない子と分けました。その日は寒くて、私はセーターをきていました。セーターを着ている子が16人、着ていない子が8人でした。なんでこんな中途半端に分けるんだらうと思っていたら、「セーターを着ている子は水素で、着ていない子は酸素ね!」と言われました。「水素はいつもどうなってる!?!」誰かが、「H2?」と答えました。「That's right! さあ、水素の子は二人組になって!」私は水素だったので、友達と2人組になりました。「水はどうやってつくるの?!」酸素の子と3人組になりました。「このエリアは0度以下。水はどうなる?」みんなでくっつきあって、氷になりました。「100度以上!」

三人組は手をつないだまま、ほわほわとたどりました。とても楽しいし、わかりやすいです。教え方がとても上手な先生だとおもいました。それから、わからなくて質問にいったら、ゆっくりわかりやすく説明してくれました。確かに厳しい先生だけれど、やさしい先生だともおもいました。今は化学の時間がくるのが楽しみです。

8月8日にホストチェンジをします。今のホストファミリーがとても好きだし、近所の子と遊ぶのもとても楽しいので、とてもさみしいです。でも次のホストファミリーもとてもいい方なので、がんばって荷造りをしています。

スーツケースが閉まらなくて、押したり、座ったりして頑張ってます。なぜか荷物が全部いらないくて、ない頭をひねって詰めています。

10.08.07 渡辺彩加 (おわり)

